

5/29カンボジア侵略反対全国学生ゼミスト！

反戦会議

5-29カンボジア侵略反対全国学生ゼミスト！

午後3時集合 京都大学時議にて——全学連、全共連、全日反戦

午後7時 反戦会議BOX結集→京都へ？

①米軍のカンボジア介入→絶望的なアジア危機の拡大

ベトナムでの米軍の戦犯、更にラオス・カンボジアへの米軍の軍事介入の拡大は、叫び声に次ぐ叫び、要求を呼んでいる。

(1) 1点、言うまでもなく、ベトナムでの、政治的にはさうさう、軍事的にも、アメリカの敗北は、とりも直さず、米帝のアジア植民地体制、その根柢を、ズタズタに引き裂いていること

(2) 2点、ニクソンが、言い願っていた、1950年代の如き、スグーリニストを一方の共犯者とする現状固定化をくさすナルター・ジュネーヌ型のベトナム化政策を、ベトナム人民の闘いの前に完全に破綻させたこと。

(3) 3点、此のアジアから米帝が、手を引くことは、アジア植民地体制の全面的な崩壊につながり、これは、必然的に、帝国主義・戦前世界体制の完全な瓦解につながるため、手を引くに引けず、まさしくアジアは、帝国主義の死の泥沼に陥っていること

(4) よって、米帝にとっては、残された唯一の道は、自らの敗北を、危機の波状的拡大→即ち、アジア全土への危機の拡大によって乗り切っていくと云った方向にある。

それ故に、カンボジアへの危機の拡大は、インド、マリピン、インドネシア、朝鮮へのアジア全土への危機の拡大の前兆であり、米帝の絶望的な死のあがきであるといえよう。

ここに、米帝にとっては、国内的にも、反戦闘争の昂揚、異人闘争の激化、トル・危機、インフレの拡大と相まって抜き差しならぬ危機にさいなまれている。

②日帝のカンボジア侵略→アジア侵略の開始か？

日帝のカンボジア侵略が反戦会議への盟主的存在介入は、叫び声に、昨今の日米共謀者「日帝のアジア侵略宣言に他ならなかった」と示した。即ち、日帝のカンボジア侵略は、とりも直さず、日帝は、米帝の侵略＝強盗的共犯者として登場し、自らの延命の道を、はっきりとアジアへ、アジア人民への侵略と抑圧へ一切を託したことに他ならない。問題は、次の点にある。

日帝のアジア侵略への開始に於いて、立ち遅れている、国内の侵略体制の整備までへの一掃的徹底と、侵略イデオロギー＝排外主義イデオロギーによって、国民的統合を図ることである。

日帝にとっては、それが、そこにカかっている。

＜学習会＞——マルクス主義研究会主催
テキスト；「何をすべきか」「ドイツ・イデオロギー」
時・所；毎週水曜日午後3時 反戦会議

それ故に、プロレタリアートには、次の如くは問題が立てられている。

(1) 日帝の攻撃が、新たな革命的段階を画するプロレタリアートとの全面的な対決を不可避としていること

(2) よって、プロレタリアートは、革命の下に、階級形成→革命党の建設を緊急の課題としていること

③帝国主義の対アジア侵略には内乱的闘争を？

レーニンは、帝国主義の他国への侵略に於いて、被抑圧民族の一切の反植民地闘争を無条件に支持し、抑圧国のプロレタリアートは、自国政府の侵略政策の敗北を内乱へ転化せよ？と大膽に提起した。

レーニンは次の如く述べている。

帝国主義は、侵略強盗の為に、国民を犠牲に、此の目的＝帝国主義的プロレタリアートの強盗的利益の為に、武装させ、戦場にかり立てようとしている。

これに対して、革命党——プロレタリアートは、いかに対処すべきかはっきりしている。プロレタリアートは帝国主義の侵略に反対し、これを、国内の内乱的闘争に転化するために、武装せしめることであり、革命党の下に結集せしめることだ。

侵略には内乱に？ 問題は、現小、具体的なテーマを抽出はならない。インドネシア革命支持と、インドネシア反革命反対と、日本の中立化などを叫ぶML派、プロ学同、民学同、革マルを粉砕せよ？

日和見主義を戦線から叩き出せ？

社会排外主義(帝国主義の侵略政策の副産物)を断固打倒せよ？ 反革命＝革マル、民学同、民青を粉砕せよ？

④6月決戦に向けての5-29ゼミストの意義？

6月安保決戦を、100%完結せしめるには、6月への至る過程の階級闘争を上昇せしめていかなければならない。それには、5月のストライキ闘争が決定的だ。現在の状況が関係する固定的にとらえるのではなく、クラス、ゼミ、クラブ、寮などを軸に、折り返し決戦を追求し、1人でも闘う学生がいるところは5-29～6月に向けてストライキ斗争委員会を組織せよ？

ワスーゼミ一方向の決議からストライキ斗争委員会の組織化に着手せよ？

前進(革共同中核派機関誌)を読もう？

闘う労働者、学生の新聞 一部50円週刊

申し込み先；ピロツキコニコープ、ラフディン、反戦会議